

Kyoto University

Campus Life News

2016.12.14 Wed **No.10**

SPEC 採択発表会を開催しました (2016年12月6日)



2016年度の「SPEC採択発表会」を開催しました。今回採択された6組はいずれも、“おもしろ”プロジェクトばかりで、学生たちによるプレゼンでは、移動式キッチンやLEGOの製作品を持ち込み、「ここがポイント!」、「世界に自分たちの能力をアピールしたい!」と熱く語っていました。

山極壽一総長から、「今年は昨年とは傾向が異なり、“人”を相手にした“活動”が多いが、SPECによって刺激を受けて新たな試みが加わったのだとうれしく思う。人を相手にするだけに安全性、反応への対処など注意すべきこともある。うまくいかないことを逆手にとって利

用する方法など、より多くの選択肢を持ちながら、遅く取り組んでいってほしい。」とのメッセージが、採択された6組に対し贈られました。

また、今回は、昨年度採択された学生からの進捗報告も行われ、iGEM世界大会での金賞受賞、グローバルヘルス・スタディツアーの今後の展望、実験等の進み具合などの報告や支援いただいた方々へのお礼のコメントがありました。

なお、SPECによる寄付募集は11月25日から始まっており、「SPEC特設サイト」で募集しているほか、今回からより気軽に寄付できる方法として、「本徳募金 for SPEC」や学内自動販売機での購入による寄付といった特別企画も行っています。

SPEC特設サイト



SPEC Facebookページ



学生サポーターの募集「障害学生支援」という言葉を知っていますか?

京都大学では、障害がある等の理由により、修学上様々な悩みや相談ごとを抱える学生への支援を行うため、障害学生支援ルームを設置し、障害学生支援の拠点としての役割を果たしています。

障害や病気などの理由で、なんらかの支援を必要としている学生に対して、より良く学べる教育・研究環境をつくるために大学生活のサポートを行っています。障害のある学生に対して人的な支援が必要な場合、その大部分を「学生サポーター」が担っています。

支援は障害種別や程度、環境によって変化し、内容も様々ですが、例えば、次のようなものがあります。

【支援活動の例】

- **視覚障害:** 対面朗読/ガイドヘルプ/拡大資料・教材の作成 など
- **聴覚障害:** 情報保障 (筆談によるノートテイク、パソコンを用いた文字通訳等) など
- **肢体不自由:** 移動介助/授業サポート など
- **その他:** 支援ルームに関わる業務

サポーターには、支援の種類ごとに養成講座や技術指導が行われますので、障害に関する知識や支援経験等は必要ありません。また、支援は授業の空きコマ等で行えばよく、原則として謝金も出ます。

障害学生支援ルームでは、学生サポーターを随時募集しています。興味がある方は、当ルームまでご連絡又はご来室ください。京都大学で共に学ぶ学生として、共に学べる環境づくりへのご協力をお願いいたします。

問合せ先、ホームページ等

学生総合支援センター障害学生支援ルーム

開室時間：9時～17時 (月～金曜日、祝日を除く)

問合せ先

TEL: 075-753-2317

E-mail: s-sien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp



熊野寮自治会との団交・協議の報告

学生生活委員会第三小委員会(学寮等担当)の委員長、医学研究科の錦織です。2016年11月4日(金曜日)に熊野寮自治会と団体交渉(以下、「団交」という。)および協議を行いましたので、以下に報告いたします。

【熊野寮 参加者の多くが顔を隠しての団交】

熊野寮自治会との団交ですが、会場は文学部第三講義室で、午後6時半過ぎから午後10時過ぎまで行われました。熊野寮自治会等側の参加者は約50人、大学執行部側の出席者は第三小委員会の教員6名と教育推進・学生支援部職員5名でした。前回に引き続き、第三小委員会から「発言者が名乗った形で少人数での話し合いを行いたい」、「このような話し合いの形は世間では通用しない」と主張しましたが、寮自治会側は「自治会として意見をまとめてきているので名乗る必要はない」、「立場の弱い学生が名乗ることで、ネガティブキャンペーンを張られて、就職などに悪影響が出る可能性がある。学生の人生についてあなた方はどこまで責任を取れるのか?」と主張し、今回も話し合いの形態に関する協議は平行線のままでした。また今回の団交では、(ハロウィーンの数日後ということもあったのかもしれませんが)寮自治会側の参加者のほとんどが、お面をかぶったり、目出し帽にサングラスをつけたり、などという装いで参加し、その理由としても上記の「学生の立場の弱さ」を挙げていました。また、現在、停学処分中の学生が団交に参加できないのはおかしい、という主張もありました。その他、警察が熊野寮の家宅捜索を行う際、短い任期で入れ替わる教員の不慣れな対応に関して、シミュレーショントレーニングを行うことも必要かもしれない、という議論もありました。

【団交について考える—その2】

本年3月に川添信介学生担当理事・副学長が「団交形

式での話し合いは応じない」、「確約団交体制はそのままでは引き継がない」という声明を吉田寮・熊野寮の両自治会に対して出したことを受けて、第三小委員会は基本的にその方針を支持しています。本年度、それぞれの寮自治会との団交のたびに毎回この川添声明を伝え、話し合いの形態の変更を協議しているのですが、なかなか合意には至りません。また今回は、寮自治会側が名乗らないだけでなく顔を隠して話し合いに臨む、という形態であったこともあり、第三小委員会内では「そのような話し合いに応じる必要はない」という意見も出ています。「団交とは何か?」、「なぜ団交なのか?」という問いはなかなか難解です。

先日、在米の教育学者である鈴木大裕さんが書かれた「崩壊するアメリカの公教育」という本を読む機会がありました。その中に書かれていたのは、過剰に成果を求める新自由主義思想によって米国の公教育が崩壊するプロセスでした。我々、日本の大学教員の多くも過度な成果主義のために疲弊して余裕を失くしてきており、「やる意味があると思えない」ことに取り組める教員は少数派になってきているように個人的には思います。私も第三小委員会担当になった際に同僚から「貧乏くじをひいたね」と言われましたし、また多くの教員にとってこの団交は「やる意味があると思えない」ものなのではないかと推察します。しかしながら私自身は毎回、「いったい誰なのかわからない」人たちを相手に、できるだけ誠実に対応しつつ、「やる意味があると思えないことが淘汰されていく」新自由主義隆盛の時代の教育について考え続けていきたいと考えています。

なお、前回の記事の繰り返しになりますが、本記事の内容には、委員長の視点・価値観が現れた部分があることを、読者の皆さまにはお汲み取りいただくよう、お願い申し上げます。

公式 Twitter 、学生意見箱

京大生への学生生活支援の一環として、公式Twitterによる情報発信を行っています。各種学生生活支援に関する情報などを積極的にお届けしますので、ご活用ください。また、京大生のみなさんの学生生活における日頃の疑問やご要望にお応えするため、「学生意見箱」を設けています。こちらも是非ご活用ください。

公式Twitterアカウント@CLI_KU



学生意見箱

